

# 水曜通信 15

2018年  
9月

東北学院大学研究ブランディング事業通信  
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

## 第15回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2018年9月19日（水） 18:30-19:00



説教：佐々木 哲夫（本学院長）  
奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

### <礼拝次第>

前 奏：F.クーブラン《修道院のためのミサ曲》  
          サンクトゥスより「テノールをティエルスで」

讃美歌：286番 「かみはわがちから」

聖 書：マタイによる福音書 7章 24-29節

讃美歌：304番 「まことなるみかみを」

説 教：「権威ある者」

祈 禱

頌 栄：541番「ちちみこみたまの」

後 奏：F.クーブラン《修道院のためのミサ曲》  
          サンクトゥスより「プラン・ジュ」

後奏の後、30分間、東北学院大学グリークラブ  
OB会の合唱による讃美を行ないます。詳細は次  
ページに。

次回第16回水曜礼拝は**10月17日**です。

## 第15回水曜礼拝の後の合唱曲目

合唱：グリークラブOB会

指揮：佐藤雅英（経済学部経済学科1973年卒）

1：Amazing Grace

2：メドレー曲 The Wayfaring Strangerより、Massa Jesus,  
Oh Lord, Wayfaring Stranger V. C. (いずれもセアール編曲による)

## 第14回水曜礼拝報告（説教：キャロル・リッチ、奏楽：小野 なおみ）

2018年7月18日(水) 18：30 - 19：00

讃美歌：75番 “All Creatures of Our God and King”  
聖書：Luke 8：4-15 「種を蒔く人」のたとえ  
讃美歌：429番 “The Church’s One Foundation”  
説教：130 Years Later – A Message from Lancaster  
頌栄：543番 “O for a Thousand Tongues to Sing”



### 【説教要旨】

今日読んだ種蒔き人のたとえ話で不思議なのは、この種蒔き人は種を蒔くに、ふさわしい土地のことなど考慮せず、ところかまわず蒔いたというあり得ない非常識なことを記しています。しかしこの驚くべきことが示すのは、福音の種は尽きることがない、そして福音はすべての人のためということです。もっと気前よく種を蒔きましょう。実を結ばないこともあるでしょう。しかし仙台は種を蒔くによい土地であることを押川先生はホーイたちに伝えて、東北伝道が始まりました。ランカスターから宣教のために仙台へやってきたウィリアム・E・ホーイ、デイヴィッド・B・シュネーダー、そして同じくペンシルヴァニアからのエリザベス・R・プールボー (Elisabeth (Lizzie) Poorbaugh)、ホーイの妻となるメアリ・オールド (Mary Ault) はいずれもとても若かったのです。ホーイは27歳、シュネーダーは30歳、プールボーは31歳、オールドにいたってはまだ22歳でした。感動的な情熱です。そして今や東北学院も宮城女子学院もランカスター神学校よりも大きく成長しています。この忠実な弟子たちを遣わして下さった神さまに、そして命の言葉を我々の心に植え付けて下さった神さまに感謝します。

(要旨作成：鐸木道剛)

前奏：J.S.バッハ「高きにいます神にのみ栄光あれ  
BWV662」

後奏：M.レーガー「強き王なる主をほめまつれ」

マックス・レーガーはドイツの作曲家・オルガン奏者です。バッハの伝統を受け継ぎつつ、19世紀ドイツロマン派の交響曲を組み合わせた壮大な曲を数多く作曲しました。

(小野なおみ)



※礼拝とその後の19時00分から20分までの宗教部聖歌隊・グリークラブ・キャロラズ合同合唱による讃美に73名の市民が参加されました。

## 礼拝後の宗教部聖歌隊・グリークラブ・キャロラーズ合同合唱による讃美



オルガン：藤江惟志（宗教部聖歌隊3年）  
指揮：菊地晏生（宗教部聖歌隊3年）

次の3曲を歌いました。

\* 讃美歌6番「われら主をたたえまし」

「せかいの友と (Here, O Lord, Your Servants Gather)」

\* 学院校歌 (Fair Gakuin)

\* 讃美歌419番「主イエスにありては世のくに  
たみ (In Christ There Is No East or West)」

ランカスター神学校の校長先生がいらっしゃると聞き、国際交流を意識した選曲をしようという結論に至りました。そこで、リッチ校長に英語の讃美歌をリクエストしていただき、それをもとに日本語の讃美歌を選び、内容を決定しました。また、歌唱隊・指揮・オルガン奏者全てを学生から選び、練習も学生だけで行いました。リッチ校長からもお褒めの言葉をいただき、いい経験になりました。

(法学部法律学科3年 宗教部聖歌隊 服部セラフ)

## ランカスター神学校との国際交流協定の締結



東北学院大学研究ブランディング事業では建学の精神の確認の一環として本学の創設に深い関わりを持つランカスター神学校での史料調査事業（次頁参照）を昨年度より実施しており、この調査事業をきっかけとしてリッチ校長をお招きして講演会を実施しました（次頁参照）。

リッチ校長の来校に合

わせて両校の交流を更に深めるために国際交流協定を締結しました。本交流協定では教職員の交流、学生の交流などを計画しています。ランカスター神学校は、19世紀半ばのジョン・ネヴィンとフィリップ・シャープのマーサーズバーグ神学の拠点でもあり、感情（愛）が教義（信仰）かの議論の中心でもありました。日本近代の基督教に大きな影響を及ぼしたアメリカの基督教を知るためにも、また福音主義の教義を考えるためにも、ランカスター神学校との交流には大きな意味があります。今回の協定締結は、地元ランカスター市でも注目され、8月4日付のランカスター新聞（Lancaster News Paper）の毎週土曜日のコラム「信仰と価値」欄に記事が掲載されました。



## 研究ブランディング事業公開講演会報告

### 「今日のキリスト教信仰：アメリカ合衆国の〈宗教市場〉のなかで」



協定締結式の後、記念講演会が開催されました。リッチ校長先生のお話をジェフリー・メンセンディーク桜美林大学准教授が通訳されました。「宗教市場」とも言うべき様々な宗教そしてキリスト教が乱立する現在、互いを認める寛容が必要であること、



その寛容はキリスト教に根拠があること、そしてキリスト教の福音はアメリカだけのものでは決してないことが強調されました。参加者は180名で記念講演に相応しいものでした。

## ランカスター神学校訪問・調査報告



8月2日から9日まで、東北学院史資料センターの田野哲調査研究員と本学の鐸木道剛教授が、ランカスター神学校内の福音改革派歴史協会（ERHS）で、ホーイとシュネーダーを中心とする東北伝道の写真資料を主に調査しました。日本伝道つまり東北伝道の記録は、17個の段ボール箱に409項目にわたって整理されており、さまざまな発見がありました。水曜通信では次号以降、調査結果についてお知らせします。（鐸木道剛）

## 研究ブランディング事業共催公開シンポジウムのお知らせ

### 「戦後平和主義と鈴木義男」

講師：塩田純（NHK文化・福祉番組部エグゼクティブ・プロデューサー）

岡田一郎：（日本大学非常勤講師） 松谷基和（本学准教授）

日時：9月29日（土）13：00-16：00

会場：土樋キャンパス 8号館 押川記念ホール

主催：東北学院史資料センター

近年、日本国憲法をめぐる議論が活発に行なわれております。憲法の制定過程にも注目が集まり、その中でも鈴木義男という人物に大きな注目が集まっています。過去3回のシンポジウム・講演会に続くシンポジウムです。

文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信  
第15号

2018年9月10日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL：022-264-6547

E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/